

国語科学習指導案

日 時：平成30年11月2日6限目
対象学級：2年1組
(男子8名 女子31名 計39名)
場 所：2年1組教室
授 業 者：青柳江美子

1 単元名 古文を読み比べ、ものの見方、感じ方、考え方を広げよう。

2 教材名 随筆1『枕草子』『九月ばかり』・随筆2『徒然草』『花は盛りに』
(東京書籍「精選古典B新版」)

3 単元設定の理由

古典の授業は、古典文法と口語訳の指導に注力した教師主導型の典型的な一斉授業になりがちである。その結果、生徒たちの学力の問題もあるが、古典の知識や内容を教え込む形に終始することになり、生徒が目的をもって古典作品を読んでいるという実感を得られる授業とは言い難い。

そこで、本校生徒の学力レベルを考慮しながら、習得した知識を活用する力の向上を目指した授業改善に取り組む。本単元の指導に当たっては、古典作品の中から現代に通じる言葉を取り上げ、生徒の活動場面を設けながら自分の考えをまとめていく学習を通して、古文に親しみをもたせたい。そして、このような現代と我が国の伝統的な言語文化とのつながりを考えさせる実践を通して、古文を読む喜びを感じるところにまで発展させることができれば、ゆくゆくは生徒の「主体的な学び」の実現につながるのではないかと考えている。

具体的には、本単元で二つの随筆作品(『枕草子』『徒然草』)を読み比べ、古今異義語である「をかし」の意味や使い方を考えたり、作品世界の特色などを読み取ったりすることで、人間や社会、自然に対するものの見方や考え方を広げることができるようにしたいと考えている。

4 生徒の実態

対象学級は文系の選抜クラスである。学習に対する意識、意欲ともに高い生徒が多く、向上心をもって学習に取り組んでいる。また学習のみならず部活動に熱心に取り組み、各部の中心的存在として活躍している者も多い。互いの良い面を認め合い、切磋琢磨して、自らが取り組んでいる分野で努力していこうとする雰囲気もある。

国語に関しては、予習や課題等の取組も含めて授業態度は良好であるが、自分から積極的に発言をすることはほとんどない。取り組むべき内容や方法が具体的に示されていることについては確実に行えるものの、自ら考えたり工夫したりして国語科の学習に取り組むことができる生徒は少ない。また習得した知識や技能を活用して考えたり、学習したことを別の課題に適用・応用させて解決したりするという面で課題が見られる。

5 身に付けさせたい力

古典の内容や表現の特色を理解して、人間、社会、自然に対するものの見方、感じ方、考え方を広げる力。

6 指導事項

古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。(内容(1)のウ)

7 言語活動

同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点を踏まえ、「私の『をかしきもの』」を発表する。(内容(2)のイ)

8 単元の目標

- (1) 古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 二つの随筆(『枕草子』『徒然草』)を読んで、作者の視点や表現のしかたを的確に捉え、描かれた情景や内容を読み味わおうとしている。(読むこと)
- (3) 二つの随筆(『枕草子』『徒然草』)を読み比べ、共通する語の意味を的確に捉え、理解している。(知識・理解)

9 評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
文章に描かれた人間、社会、自然などに対する考えを文章に即して読み味わおうとしている。	① 文章の内容を叙述に即して的確に読み取っている。 ② 文章を読んで、作者の視点や表現の仕方を的確に捉えている。 ③ 二つの随筆を比較し、類似点や相違点を捉え、「をかし」という言葉に対する自分の考えをもつ。	① 文語のきまりを活用して口語訳している。 ② 二つの随筆を読み比べ、共通する語句の意味を的確に捉え、理解している。

10 単元の計画

時	学習活動	評価規準						評価方法
		関心・意欲・ 態度	読む能力			知識・理解		
			①	②	③	①	②	
1	- 本単元の目標について理解する。 「随筆」について理解する。 『枕草子』「九月ばかり」を音読する。 - 古語の意味を調べ、口語訳する。	○		○			○	行動の観察 記述の確認
2	- 前時の内容を振り返り、全文を音読する。 - 前時に引き続き、古語の意味を調べ、口語訳する。	○		○			○	行動の観察 記述の確認
3	- 前時の内容を振り返り、全文を音読する。 - 作者が「をかし」と捉えているもの（情景）を把握する。 - 作者の視点をまとめる。 - 作者の「をかし」の語の意味をまとめる。	○		○				行動の観察 記述の確認
4	『徒然草』「花は盛りに」を音読する。 - 古語の意味を調べ、口語訳する。	○		○			○	行動の観察 記述の確認
5	- 前時の内容を振り返り、全文を音読する。 - 前時に引き続き、古語の意味を調べ、口語訳する。	○		○			○	行動の観察 記述の確認
6	- 前時の内容を振り返り、全文を音読する。 - 既習した「長月ばかり」と同様に、「花は盛りに」の「をかし」を捉える。	○		○				行動の観察 記述の確認
7	- 前時の内容を振り返り、全文を音読する。 「九月ばかり」と「花は盛りに」の「をかし」を比較し、類似点と相違点を整理する。 - 相違点が生じた理由を考える。	○				○	○	行動の観察 記述の確認
8	- 二つの作品から「をかし」の意味や語句が何に対して、どんな場面で、どんな意味で使われているのかを分析する。 「をかし」という語句の使い方を考えながら、「私の『をかしきもの』」を現代語で作成する。	○		○			○	記述の確認 記述の確認
9	「私の『をかしきもの』」を発表する。	○				○	○	行動の観察 記述の確認

11 本時の実際（8／9）

(1) 本時の目標

二つの随筆に用いられている「をかし」の語句の意味や使い方を捉え、それを基に「私の『をかしきもの』」を作成する。

(2) 本時の評価規準

「をかし」の語句の意味や使い方を適切にまとめ、それに基づいて自分の考えを述べている。（読む能力①）

(3) 本時の展開

過程	時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入	3	- 前時までの学習を振り返り、本時の目標と流れを確認する。 - 学習目標 二つの随筆に用いられている「をかし」の語句の意味や使い方を捉え、「私の『をかしきもの』」を書こう。	本時の流れについて見通しをもたせる。	
	7	- 前時に学習した「をかし」の語句の意味や使い方の類似点と相違点を確認する。 - その類似点と相違点を活用して「をかし」の意味や使い方を整理して書く。（個）	「をかし」の語句の意味や使い方の類似点と相違点を踏まえ、何に対し、どんな場で、どんな意味で使われているかを考えさせる。 「をかし」の語句の意味や使い方を次の三つの視点で考えさせる。 ①対象(何に・誰に対して) ②場面(どのような場面で) ③意味(どのような意味で)	記述の確認
展開	10	「をかし」の語句の意味や使い方をグループで発表し合い、意見交換を行う。（小グループ）	視点に基づいて、自他の考えを交流し、共通点や相違点に気付かせる。	行動の観察
	5	グループで話し合ったことを活かして、「をかし」の語句の意味や使い方を再検討して、明確にする。（個）	「をかし」の語句の意味や使い方について自分が発想しなかったことや相手の発想の良い点に気付かせる。 - 自分の考えた「をかし」の語句の意味や使い方について再度考えを広げたり、深めたりさせ、必要があれば加筆、修正させる。	
	20	「をかし」の語句の意味を現代の私たちの生活に当てはめると具体的にどのような事柄や場面が挙げられるかを考える。（個） - 自分が考えた具体的な事柄や場면을ペアで話し合う。（ペア） 「をかし」の意味や使い方に基づいて、現代の社会や生活の中にある「私の『をかしきもの』」を現代語で記述する。（個）	「をかし」の語句の意味や使い方を現代の具体的な事柄や場面に適用させることで、伝統的な言語文化と現代の社会や生活とのつながりを考えさせる。 - 互いの考えに質問をし、根拠や理由を明確にしながら話し合わせる。 - 生徒一人一人のものの見方や考え方で現代の社会や生活の中から私の考える「をかしきもの」について、200字～400字で書かせる。	記述の確認
終末	5	本時の学習を振り返る。	- 単元を通して自分の見方、考え方がどのように変わったかを振り返らせる。（変容の自覚） - 自分たちでまとめた「をかし」の意味を活用して「私の『をかしきもの』」が書けているか確認する。 - 次時に書き上げて、発表することを確認する。	記述の確認

地理歴史科（世界史A）学習指導案

日 時：平成30年11月2日（金）第6校時

場 所：1年4組

学 級：1年4組（男子12名 女子28名 計40名）

指導者：末 永 友 美

教科書：『世界史A新訂版』（実教出版）

副教材：『ニューステージ世界史詳覧』（浜島書店）

『新世界史要点ノート標準編』（啓隆社）

『明治維新と郷土の人々』（鹿児島県）

『日本とタイー国交樹立130年ー』

（外務省外交史料館別館展示室）

1 単 元

第5章 19世紀の世界の一体化と日本

第6節 アジア・アフリカ・ラテンアメリカの変動

3 東南アジアの植民地化

2 単元の教材観

この単元では、イギリス産業革命による工業化の進展とともに世界が一体化する過程と、アジア諸国の植民地化やヨーロッパとの接触に伴う社会の変容について理解させる。

タイは、昨年日本との国交樹立130年を迎え、東南アジアで日本と同じく独立を保つことができた国であり、この時期の日本の近代化と関連付けて指導することで、日本と世界との歴史のつながりに気づき、より一層生徒の理解が深まると思われる。そこで本単元は、東南アジアの植民地化が進む時期のタイ（モンクット王・チュラロンコン王）を中心に、国と国との関わりに着目し主題学習として設定した。

明治維新150周年記念事業（鹿児島県）や特別展示関連の資料（外務省外交史料館）、新聞記事を使って、鹿児島と絡めた日本の近代化とタイの近代化について、国と国や過去と現代、地歴公民相互の関連について考察させたい。

3 生徒観

1年4組の生徒は、授業への取り組みや課題の提出状況はおおむね良好であるが、全体的におとなしく、受動的な態度で授業に臨む姿が見受けられる。

そこで、調べ学習を通して主体的に取り組む姿勢を育成することで、世界史への興味・関心や学習意欲を高めさせ、歴史探究に取り組ませたいと考える。

4 単元の指導計画（資料①） 主題 「イギリス産業革命後の日本と東南アジア」 （全6時間）

- | | |
|--|------------|
| (1) 夏季課題レポートまとめ・調べ学習・鹿児島と日本の近代化のまとめ（新聞記事等） | ・・・2.5時間 |
| (2) タイ以外の東南アジアの植民地化（教師による授業） | ・・・1時間 |
| (3) タイの近代化のまとめ（調べ学習・検討・説明準備） | ・・・1.5時間 |
| (4) 発表・考察 | ・・・1時間（本時） |
| ① タイの近代化について説明とまとめ・日本の近代化との比較・考察 | |
| ② 現代との関わり（新聞記事） | |

5 単元の目標

日本・タイについての調べ学習と主体的・協働的な学習を実施することにより、日本とタイの近代化の特徴と現代との関わりに気づかせ、主体的に課題を追究する姿勢を育成する。また、地歴公民の関連についても理解する。

6 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
日本とタイの近代化について、相互の関連や現代との関わりを、意欲的に追究しようとしている。	日本とタイの近代化について比較し、相互の関連や現代との関わりについて多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	日本とタイの近代化や現代に関する史料を活用し、その特徴について、ワークシートやマグネットシートにまとめている。	日本とタイの近代化と当時の世界情勢や相互の関連、現代との関わりについて理解している。

7 本時の実際

- (1) 本時の主題 「日本とタイは、なぜ独立を保つことができたのか。」
「独立を保てた時の日本とタイの対応が、現代にどのように活かされているか。」

(2) 本時の目標

- ① 日本とタイの近代化や現代との関わりについて、意欲的に追究する。【関心・意欲・態度】
② 日本とタイの近代化について適切に表現し、類似や差異などを比較して考察している。【思考・判断・表現】
③ 新聞記事を読み、過去と現代との関わりについて、ワークシートにまとめている。【思考・判断・表現】

(3) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の規準
導入 5分	- 前時の確認 (日本の近代化のまとめは、黒板に貼る) 【学習課題1】	タイの近代化について①～④のグループに分かれ検討し(前時)、①～④のメンバー1名ずつ計4名で班を作成させ、本時の学習課題の考察をさせる。	- 学習課題を確認し、関心を持って取り組んでいる。 【関心・意欲・態度】
展開 ① 25分	①～④の説明を聞き、表に記入する。 - 日本の近代化の特徴(まとめ)に着目して、タイの近代化の特徴について文章でまとめ、日本と比較・考察をする。 ① 国際状況(周辺諸国の植民地化・対英仏均衡政策) ② 外国(日本含む)との関係 ③ 国内状況(近代化政策) ④ 産業(コメ輸出) 【学習課題1】の解決を図る。 【学習課題1の課題解決】	- 各班の①～④の担当者が、前時の検討内容を説明して各自表に書いた後、タイの近代化の特徴(まとめ)を話し合う。 - 文章化できない場合、考察を重視するため箇条書きで書く。 - 日本史と地理の選択者が同数の場合、①と④を地理選択者、②と③を日本史選択者が前時の検討と説明を行う。 - 日本の近代化のまとめ(前時までに実施済)を参考にして、タイの近代化と比較し類似点は赤、差異は黒線を引き、班で考察する。 - 考察が終了した班は、マグネットシートに記入し黒板に貼って発表する。	- 説明を聞き、意欲的にワークシートにまとめている。 【関心・意欲・態度】 - ワークシートを活用して、日本とタイの近代化の類似や差異について考察している。 【思考・判断・表現】
鹿児島(薩摩)は、薩英戦争後イギリスから技術を学び、<u>西欧の知識・技術を在来の技術に置き換え融合</u>することで近代化が進展し、紡績業を中心とした明治日本の近代化に影響を与えた。日本は、<u>西欧への視察や法典整備、鉄道敷設等で外国人指導者から知識・技術を導入</u>するなどの近代化を進めたことで、<u>産業(軽工業・重工業)</u>も発展し独立を維持できた。(前時) タイは、英仏の緩衝地帯として両者のバランスをとる勢力均衡策をとり、<u>外国の視察、外国人(日本人)顧問を招き司法制度改革や鉄道敷設等の近代化を進め、独立を保つことができた。</u>また、自由貿易に転換し、食糧以外の輸出用作物栽培を行う周辺地域に<u>コメを輸出</u>して財源を確保した。(類似：下線，差異：二重下線)			
展開 ② 15分	【学習課題2】 - 独立を保てた時の日本とタイの対応が、現代にどのように活かされているか。 【学習課題2】について、個人で考えた後、班で検討しワークシートにまとめる。 【学習課題2の課題解決】	- 新聞記事を読み、空欄部分に入るまとめの例文の()に適切な語句と文章を考え、班で検討しワークシートに記入させる。 - 過去の出来事と現代に関わる新聞記事の内容と題名から、空欄を推測し記入させる。	- 日本とタイの近代化について、まとめたワークシートと新聞記事をもとに、現代との関わりを考察し、適切に表現している。 【思考・判断・表現】
現代の日本は、独自の技術力を持った(鉄道)の輸出をしている。タイは、近年コメだけではなく工業化も進展し、過去の政策と同様に(一つの国に肩入れせず大国同士を競わせる)戦略をとっている。			
終末 5分	本時の学習課題の振り返りを行う。	各班の代表者にその場で発表させる。発表までできなかった場合、次回発表を行う。	- 近代化の特徴と現代との関連について意欲的に追究できたか。 【関心・意欲・態度】

(4) 本時の評価規準

- ① 日本とタイの近代化や現代との関わりについて，意欲的に追究する。【関心・意欲・態度】
- ② 日本とタイの近代化について適切に表現し，類似や差異などを比較して考察している。【思考・判断・表現】
- ③ 新聞記事を読み，過去と現代との関わりについて，ワークシートにまとめている。【思考・判断・表現】

8 参考文献

- ・ 『東南アジアの歴史 人・物・文化の交流史』 桐山 昇・栗原 浩英・根本 敬 著 (有斐閣アルマ)
- ・ 『東大講義 東南アジア近現代史』 加納 啓良 (めこん)
- ・ 『岩波講座 東南アジア史6 植民地経済の繁栄と凋落』 (岩波書店)
- ・ 『物語 タイの歴史』 柿崎 一郎 (中公新書)
- ・ 『王国の鉄路 タイ鉄道の歴史』 柿崎 一郎 (京都大学学術出版会)
- ・ 『タイを知るための72章 【第2版】』 綾部 真雄 (編著) (明石書店)
- ・ 『もうひとつの「王様と私」』 石井 米雄 (めこん)
- ・ 『タイの基礎知識』 柿崎 一郎 (めこん)
- ・ 『鉄道の誕生 イギリスから世界へ』 湯沢 威 (創元社)
- ・ 『鉄道と近代化』 原田 勝正 (吉川弘文館)
- ・ 『日本鉄道史 幕末・明治篇』 老川 慶喜 (中公新書)
- ・ 『近代化の旗手、鉄道』 堤 一郎 (山川出版社)

他

数学科学習指導案

日 時 平成 30 年 11 月 2 日 (金)
場 所 鹿児島県立松陽高等学校 1 年 1 組教室
対 象 普通科 1 年 1 組 40 名
(男子 11 名 女子 29 名)
授 業 者 教 諭 福 田 大 樹
使用教科書 数研出版改訂版新編数学 A

1 単元名 数学 A「第 1 章 場合の数と確率」

2 単元について (指導観)

中学校第 2 学年では、樹形図などを利用して起こりうるすべての場合を列挙することができる程度の事象について、起こりうる場合を順序よく整理し数え上げることによって確率を求めることを扱っている。本単元では、数え上げの原則や順列・組合せ及びその総数の求め方について理解させるとともに、それらを具体的な場面に活用できるようにする。

単元の導入では、数え上げの原則として、和の法則と積の法則を確実に理解させることを重視したい。特に積の法則については、和の法則に対してその特長を意識させて、その応用である順列・組合せの感覚的な理解につなげたい。

3 生徒の実態 (アンケートなど)

学力検査や入学直後の試験時点での解答を見ると、応用問題においては手がつけられない傾向にあったが基礎的な公式計算や証明技能などは概ね身につけているものと感じられた。しかし、入学後の授業では自宅学習等のリズムが作れずに、授業では理解できるものの試験前での定着に難のある生徒が目立つ。

本校では、数学科の共通指導事項として「教え合い、学び合い」を重視した授業を実施している。授業予習プリントを用意し、事前に生徒が教科書を読んで学習できる形を作っており、授業では教師の説明に対して、生徒同士の疑問や意見が出やすい環境を目指している。学習形態は、ペアやグループ、自由移動の時間を利用しており、課題に対する疑問や解決策の共有や協働を積極的に取るようにしている。

4 単元の目標（4観点）

- (1) 場合の数と確率における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらの事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。

【関心・意欲・態度】

- (2) 場合の数と確率において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。

【数学的な見方・考え方】

- (3) 場合の数と確率において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。

【数学的な技能】

- (4) 場合の数と確率における基本的な概念、原理・原則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。

【知識・理解】

5 単元の指導計画（全31時間）

節	項	時	主な内容	単元を通した主体的・対話的で深い学び		
				主	対	深
1 場合の数	1 集合の要素の個数	2	・集合の要素の個数に関する公式を理解する。	○	○	
	2 場合の数【本時】	4	・和の法則と積の法則の意味を確実に理解する。		○	○
	3 順列	4	・順列の意味を理解し、その総数を求める。		○	○
	4 組合せ	4	・組合せの意味を理解し、その総数を求める。	○		○
	補充問題	1				
2 確率	5 事象と確率	3	・確率の基本的な法則をまとめ、余事象などについて理解する。	○	○	
	6 確率の基本事項	4	・集合の考えを適切に活用し、事象が起きる確からしさを数量的にとらえる。		○	○
	7 独立な試行と確率	4	・具体例を通して、独立な試行の意味を理解する。	○	○	
	8 条件付き確率	4	・簡単な場合について、条件付き確率を求められる。	○		○
	補充問題	1				

6 単元の観点別評価規準

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
場合の数と確率における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらの事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	場合の数と確率において、事象を数学的に考察して表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	場合の数と確率において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	場合の数と確率における基本的な概念、原理・原則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。

7 本時の実際（4/31）

(1) 題材 和の法則と積の法則

(2) 目標

ア 和の法則と比較し、積の法則の利用できる条件を説明できる。 【見方・考え方】

イ 具体的な場面で積の法則を用いて計算ができる。 【技能】

(3) 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業設計の工夫

ア 主体的な学び

生徒自身が問題意識を持ち、自ら解決に向かうような発問・声かけを行うことを重視する。導入では、学習課題を和の法則で考えさせ、その上でまとめて計算できる方法（積の法則）があることに気付かせる。展開では、積の法則が利用できる事象の特徴に気付かせる。

イ 対話的な学び

生徒自身が問題への解決策を見いだした際に、周囲の生徒への問答や教師への意見を発表させ、他者と共有する事でその正しさと有用性を実感させ、学習内容の理解につなげる。本時ではペアでの議論を推奨し、時には自由に周囲と確かめる状況を作る。

ウ 深い学び

問題が解決できた際に、その解決策を教師が広げ数学のもつ応用性に気付かせる。その際に、これまでの学習内容や、実社会における具体的事象などとの関連問題を活用して、今後の学習に対しての視野を広げさせる。

(4) 本時の実際

課程	時間	形態	学習活動と生徒の反応例	指導上の留意点評価
導入	10	一斉	① 振り返りシート（前時・本時）を配布する。 ① 前時の振り返り 「和の法則」を用いてものの数え上げをする際のポイントは何だったか。 ＜生徒の反応例＞・場合分けをする ・樹形図を利用する など	対話的な学び ・互いに知識・理解を確認できたか。
		ペア	② 学習プリント確認 教科書の用語空欄埋めや練習問題など自分で考えてみたものを、周囲と比べる。	主体的な学び ・積極的に授業の準備ができていたか。
		一斉	③ 学習課題1の確認 『2種類のケーキと3種類の飲み物からそれぞれ1種類ずつ選ぶセットの種類の数を求める。』どのように考えるか。なぜ積を利用して考えられるのか。 ＜生徒の反応例＞・和を利用すればいい $3+3=6$（通り） ・積を利用できそうだ $2 \times 3=6$（通り）	深い学び ・和や樹形図を利用する場合も考慮したか。 ・積を利用する考えを持てたか。 ・積の法則の良さは何か実感があったか。 ・積の法則と和の法則との区別がついたか。

		個 一斉	・樹形図を利用する 4 積の法則のしくみを確かめる。 5 学習目標の確認 『どのような問題のときに積の法則が利用できるか調べる。』	深い学び ・問題により積の法則が可能かチェックできたか。
展開	35	個 ペア 一斉 ペア 個 ペア	6 練習問題1を解く 『大小2個のさいころを投げるとき、(1) 2個のさいころの目の出方は何通りあるか。(2) 大きいさいころの目が3以上であり、小さいさいころの目が偶数である出方は何通りあるか。』 <生徒の反応例> ・逆に和の法則で考えてみると面倒だ ・(1)は6×6で良さそうだが、積の法則を利用できる理由をどう表現しようか 7 学習課題2の確認 『コーヒーストッパのメニューを見て、注文できるコーヒの種類の総数を求める。』 8 練習問題2を解く 『大中小3個のさいころを投げるとき、すべての目が奇数である出方は何通りあるか。』 『積 $(a+b)(c+d)(x+y+z)$を展開すると、項は何個できるか。』 <生徒の反応例> ・まとめて計算できる時は積の法則を利用すれば良い ・まとめて計算できない時は和の法則を利用することになる。 9 補充問題1を考える 『袋の中に、1から9までの番号が書かれた玉が1個ずつ、合計9個入っている。この袋の中から1個の玉を取りだして番号を調べ、袋に戻す。次に再び袋から1個の玉を取り出して番号を調べる。』 (1) 2つの番号の積が奇数になる場合の数 (2) 2つの番号の和が偶数になる場合の数	主体的な学び、対話的な学び ・積の法則を利用する理由まで説明できるか。 ・お互いに気付き合い、教え合いによる理解があるか。 主体的な学び、対話的な学び ・積の法則がどこで使われるか判断できるか。 深い学び ・ここまで解いて、積の法則と和の法則との区別ができたか。 主体的な学び、深い学び ・積極的に考えられたか。 ・積の法則を利用できたか。
終末	5	個	10 本時の振り返り ・振り返りシートを記入させる。	深い学び ・本時の学びを言葉にしてみる。

(5) 評価

ア 和の法則と比較し、積の法則の利用できる条件を説明できたか。【見方・考え方】

イ 具体的な場面で積の法則を用いて計算ができたか。【技能】

理科（生物）学習指導案

日 時：平成30年11月2日(金)6限目

学 級：1年5組(普通科)40名(男子17名, 女子23名)

場 所：生物室

教科書：高校 生物基礎 新訂版 (実教出版)

授業者：泊 雅一

1 単元名

細胞とエネルギー ―酵素の触媒作用―

2 単元の目標

- (1) 生物とエネルギーに関する資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解させる。
- (2) 光合成や呼吸などの代謝とATPを関連付け、全ての生物は光合成や呼吸などの過程でATPが合成されることを理解させる。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
生命活動にエネルギーが必要であることを代謝とATPと関連付けて進んで理解しようとする。 ミトコンドリアと葉緑体が、原核生物に由来することを進化と関連付けて進んで理解しようとする。	生物とエネルギーに関する資料に基づいたり、観察、実験を行ったりすることを通じて、光合成や呼吸の過程と代謝やATPとの関係を見だし、考えを表現できる。	酵素カタラーゼの働きを調べる実験に関する基本操作や器具の正しい扱い方を身に付け、安全に実験を行うことができる。	光合成や呼吸などの代謝とATPを関連付け、全ての生物は光合成や呼吸の過程でATPを合成していることを理解する。 光合成や呼吸の反応が酵素の触媒作用によって進むことを理解する。

4 単元の指導計画（全6時間）

2 節 細胞とエネルギー

- 1 代謝とエネルギー (1時間)
- 2 酵素 (1時間)
- 3 酵素の働き (実験) (1時間) ※本時
- 4 光合成 (1時間)
- 5 呼吸 (1時間)
- 6 ミトコンドリアと葉緑体の起源 (1時間)

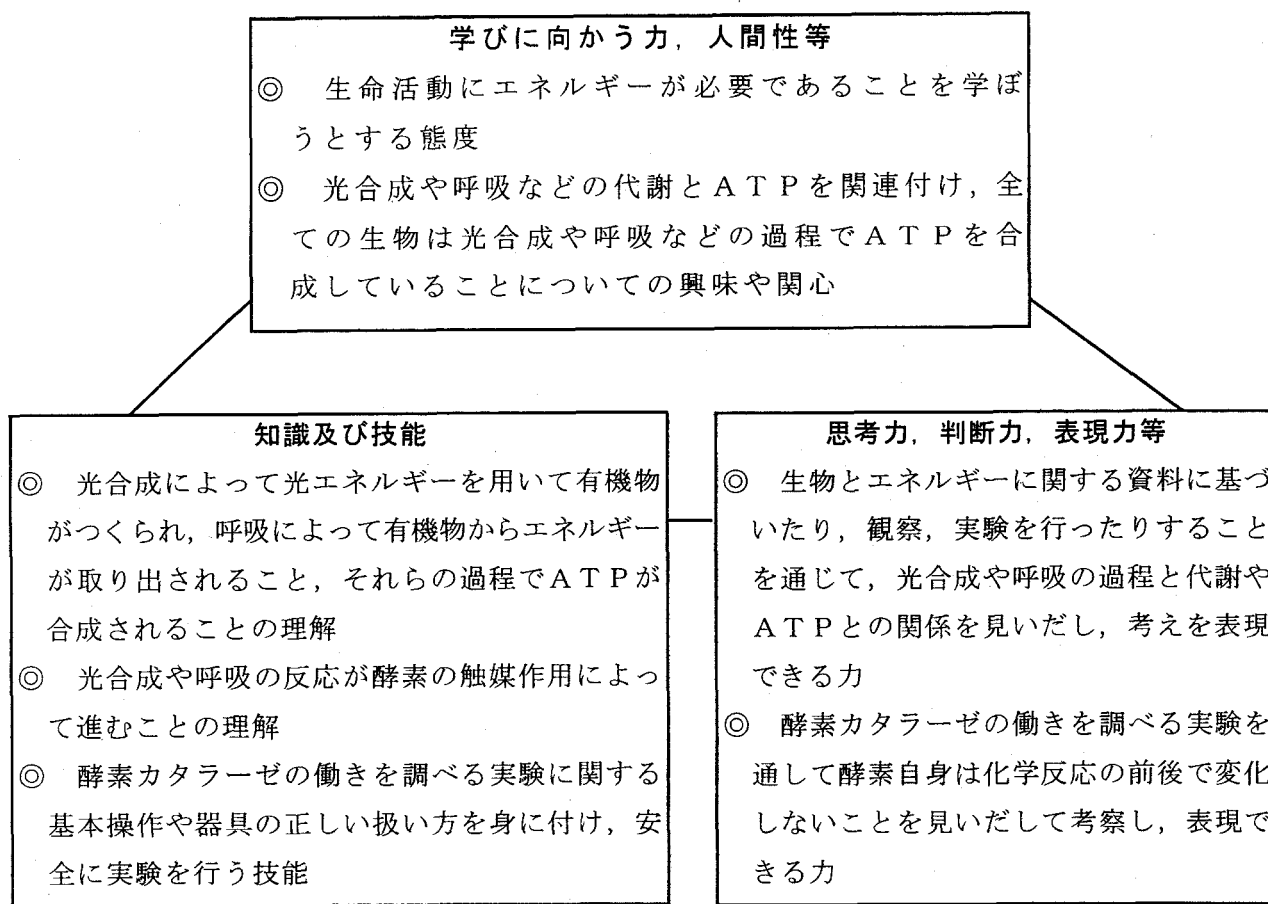
5 生徒観

授業中の積極的な発言も見られ、ペアやグループ活動では明るい雰囲気に取り組む。その反面、思考を苦手とする生徒も見られる。理解度に個人差があるため、学習内容の定着に関して工夫した授業を計画、展開する必要がある。

6 各教科等とのつながり

小学校	中学校	日常生活
・第6学年 燃焼の仕組み (酸素の物を燃やすはたらき)	・第1学年 気体の発生と性質 (酸素の発生, 捕集, 性質)	・保健室での治療 (消毒液, オキシドール)

7 単元全体で育成したい資質・能力



8 本時の実際

(1) 本時の目標

酵素の働きの実験を既習事項と関連付けて行い，その結果を的確に記録，整理して，考察する力を身に付けるとともに，酵素は特定の化学反応を促進するものであるという酵素の性質を理解する。また，課題の解決から気付く新たな疑問から計画，実施した実験を通して酵素自身は化学反応の前後で変化しないという酵素の性質を見だして理解する。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価基準
導入 10分	- 酵素に関する知識の確認 - 本時の目標及び実験上の注意点を確認 - 実験で使用する用紙の受け取り	- 前時に行った酵素に関する調査用紙を利用し，酵素が化学反応を促進することを想起させる。 - 実験上の注意 - 班員の一人に作業が集中しないことを確認させる。 - 安全のため，実験は立って行うように指示する。 - 考えるべきときも人任せにならないよう積極的に取り組ませる。 - 全体での発表は班毎に代表者が行うよう指示する。	

導入 10分	- 二酸化マンガンと過酸化水素水の反応の復習 - 準備された実験器具の確認	発問 1 「中学校の理科の授業で二酸化マンガンはどのような実験で使ったか。」 - 二酸化マンガンと過酸化水素により酸素が発生することを中学校での既習内容と関連付けて想起させ、再確認させる。 - 実験のため準備されているものを確認させ、不明な点について質問を受ける。	
展開 33分	○実験の目的 酵素の触媒作用について調べる ○実験手順 (1) 試験管 4 本それぞれに過酸化水素水を入れる。 (2) 試験管に二酸化マンガン、石英砂、肝臓片、シイタケを入れ、反応を確認する。 - 実験手順の注意点を班で話し合い、発表 グループ - 実験の実施、結果の記録 - 実験結果の発表 グループ - 発問 2 について個人で考えてから意見を班でまとめ、班毎に発表 個人 → グループ 予想される生徒の考え - なくなったから。 - 反応しきったから。 - 発問 3 について個人で考えてから意見を班でまとめ、班毎に発表 予想される生徒の考え - 過酸化水素を加える。 - 酵素（触媒）を加える。	反応は気泡の発生状態で確認させる。 - 実験の目的を意識させ、注意点を考えさせ、班毎に発表させる。 - 机間指導を行い、安全に実験が行えているか、器具を正しく扱っているかを確認する。 - 実験結果を正しく記録させる。 - 班毎に結果を発表させ、教師が黒板に板書することで情報を共有させる。 発問 2（問題への気づき） 「なぜ、反応（気体の発生）が止まったのか。」 - 発問 2 に対して、時間をしっかりと設定して個人で考えさせてから班で話し合わせ、班毎の考えを発表させる。 - 生徒の発表に対しては、否定するのではなく、まずは発表内容を受け入れること、自分たちの班の「考え」を明確にし、それを基に考えを整理し直してもよいことを伝えておく。 発問 3（新たな課題の設定） 「再び反応（気体を発生）させるにはどうすればよいか。」 （「どのような追加実験を行い、どのような結果が得られれば、反応が止まった原因を確かめることができるのか。」）	【観察・実験の技能】 【思考・判断・表現】

展開 33分	- 各班で考えた追加実験を計画，実施する。 - 実験結果の発表	- 発問3に対して，時間をしっかりと設定し，個人で考えさせてから班で話し合わせ，班毎の考えを発表させるようにする。 - 各班の考えに基づき実験を行って結果をまとめさせる。その際，計画，実施した実験方法，結果は否定しない。 - 結果に見通しがもっているかに注意をはらいながら助言を行う。 - 班毎の結果を発表させ，教師が黒板に板書することで情報を共有させる。	
まとめ 7分	- 後片付け - 本時のまとめ - 問題演習	酵素(触媒)は反応の前後で変化せずに，化学反応を促進させる性質をもつ。 用紙を回収し，生徒の活動状況・理解度を確認する。	

音楽科学習指導案

科目	授業学級	授業場所	使用教科書等	授業者
音楽史	2年7組（音楽科） 38名（男子8名，女子30名）	音楽室2	音楽史を学ぶ （教育芸術社）	中尾 麻里

1 題材名

「ヨーロッパの歴史や文化，音楽について知ろう（オーストリアを中心に）」

2 題材の目標

西洋音楽史やオーストリアの文化について興味・関心を持ち，オーストリアの文化，歴史，伝統への理解を深め，文化的価値について考えることができる。

3 題材の評価規準

- (1) 西洋音楽史やオーストリアの文化について興味・関心を持ち，主体的に研究に取り組もうとしている。（関心・意欲・態度）
- (2) 西洋音楽史について，オーストリアの文化，歴史，伝統と関連付けながら，その文化的価値について考えている。（思考・判断・表現）
- (3) 西洋音楽史について理解を深めている。（知識・理解）

4 題材の指導計画（全8時間）

- (1) 第1次 グループに分かれ，オーストリアの音楽や文化について興味・関心のある内容を選ぶ。
(1時間)
- (2) 第2次 研究内容について資料を基に調べる。(3時間)
- (3) 第3次 発表内容について検討する。(1時間)
- (4) 第4次 相互発表をする。(2時間)（本時）
- (5) 第5次 発表のまとめをする。(1時間)

音楽科では毎年2年次の冬に海外研修旅行でオーストリアのウィーンとザルツブルクを訪れる。これまでの音楽史の授業の学習を踏まえ，研修旅行の事前学習として，音楽が生まれ育まれてきた国，地域，風土，人々の生活や歴史文化や伝統について学んだことや研究したことを相互発表し，理解を深めることで研修旅行がより充実した学習になるように取り組む。また，音楽を表現するにあたりこの学習がいかに必要かを認識させる。

5 教材観

音楽科では2年生から2年間にわたり「音楽史」を学習する。音楽史を学習することは演奏する上でとても重要であり、音楽の歴史的背景や文化等を理解したり作曲者の生涯を学習したりすることで、より豊かな音楽表現の土台を形成していく。また、事前学習をすることで、研修先を訪れるだけでなく、興味・関心を持って研修が充実し、より豊かな音楽表現につながるものと考えた。

6 生徒観

2学年の音楽科の生徒は男子8人、女子30人、計38人であり、専攻ごとの内訳はピアノ7人、声楽5人、管弦打楽器26人となっている。声楽専攻や管弦打楽器専攻の生徒の約半数はピアノ等の音楽の基礎的な学習を高校から始める生徒も多いが、一年かけて様々な経験と知識を得てきている。

音楽史については2学年からの学習だが、1年次より音楽史の教科書を見る機会を設け、西洋音楽史の時代区分等にふれたり、外部講師の出前授業「宗教改革と音楽について」など学習する機会を設けたりしている。しかし、実際の演奏表現を深めるような内容にまで理解が到達していないため、今回の研修旅行を通してより実践的な学習につながるようにさせたい。

学級の雰囲気は、とても明るく活発的ではあり意欲的に授業に取り組んでいるが、自分の考えや意見を述べることには苦手意識を持つ生徒も多く、この学習を通して自分の考えをまとめ、表現できる力を育てていきたい。

7 指導観

研修旅行に行くにあたり、歴史的背景や文化・作曲家についての知識理解が不可欠であり、グループ活動において互いに協力しあい、研究した内容について各グループが理解できるように発表の内容を工夫させ、研修旅行が充実した内容になるように計画していきたい。その発表を通して学んだ内容を研修旅行で実際に体験し、研修後に学んだことや感じたこと、新たに気付いたことなど事後学習においてレポートにまとめるなどして、今後の演奏活動において演奏表現を深めたり、鑑賞活動につなげられたいよう指導したい。

8 本時の展開

(1) 本時の目標

ア 西洋音楽史やオーストリアの文化等について調べたことを工夫して伝えたり、関心を持って他者の発表を聞いたりすることができる。

イ 相互発表によってオーストリアの文化や音楽、歴史的背景等多様な音楽の文化的価値について考えることができる。

(2) 本時の実際

過程	展開	学 習 内 容	指導上の留意点 () は評価の観点
導入	5分	○ 本時の学習目標を確認する。 ○ 聞く視点を確認する。 ・ 発表内容についての疑問点 ・ 自分たちがしらべたこととの共通点・相違点・関連性など	聞く視点を設定することによって、自分たちが調べた文化や音楽史と関連付けて聞かせる。 ワークシートを配付し、発表を聞きながらメモするよう指示する。
展開	25分	○ 研究内容について発表する。 ・ 作曲家について ・ 鑑賞するオペラについて ・ オーストリアの歴史や文化について など	発表者は分かりやすく伝えようとしているか、また、聞く側も研究内容について興味・関心をもって聞こうとしているか。 (関心・意欲・態度) 次のグループの準備の間にワークシートに記入させる。
	15分	○ 発表の内容をワークシートに記入し、グループごとに学んだこと・気付いたことなどを話しあい、まとめる。 ○ 質疑応答	新たに知ったことやより理解が深まったことについて発表を聞きながらワークシートにまとめさせる。 (思考・判断・表現)
まとめ	5分	○ 本時のまとめと次時の予告	本時についてまとめる 次時の予告をする。

(3) 本時の評価

ア 西洋音楽史やオーストリアの文化等について調べたことを工夫して伝えたり、関心を持って他者の発表を聞いたりすることができる。

イ 相互発表によってオーストリアの文化や音楽、歴史的背景等多様な音楽の文化的価値について考えている。

美術科学習指導案

科目	授業学級	授業場所	使用教科書等	授業者
美術専門 素描	2年8組（美術科） 33名男子8名女子25名	素描室 （本時はデザイン造形室）	高校生の美術	上木原堅一

1 題材名「みんなで感じるみんなの成長～ポートフォリオから確認する達成度と課題～」

2 題材観

素描は、対象イメージや空間、形態などを把握し、表現材料の特性を理解し、表現を工夫しながら的確に観察する力と描写する力を養うという学習意義があり、1年次で2時間、2年次で3時間取り組み、生徒の資質・能力の向上を図っている。

本題材では、1年次に学んだ「素描」に対する学習意義を再度深く理解し、技術的な面においても多面的な観点において向上することができることを目的とする。そのため、2年次の1学期に制作した作品からポートフォリオを作成し、自分だけではなく他者の作品も互いに鑑賞し合うことで協働的に美的価値観を高めさせたり、達成度を確認することで課題発見に努めさせたりしたい。

3 題材の目標

- (1) 作品を鑑賞する中で、自身の作品や友人の作品に興味関心をもち、表現方法や達成度について友人と意欲的に意見交換を行うことができる。（関心・意欲・態度）
- (2) 単なる素描の作品制作にとどまらず、画面の構成や形の捉え方や、素描を主とした作品としての完成度を高める方法について試行錯誤しながら発想力を育てることができる。（発想や構想の能力）
- (3) モノトーンによる段階的な調子を用いた表現を利用して、陰影や質感そして空間などの多面的な観点における技術の取得を目指して制作に取り組むことができる。（創造的な技能）
- (4) お互いの作品を鑑賞し、素描表現における多面的な技術の達成度について確認するとともにこれからの課題について意見を述べ合うことができる。（鑑賞の能力）

4 題材の評価基準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自分自身だけでなく友人の作品にも興味関心をもち、意欲的に鑑賞する中で、表現方法や達成度についてワークシートにまとめ、今回の課題について意見を述べることができる。	素描の課題に対して、「素描作品としての完成度を高める方法」などの目的意識をもちながら画面の構成や形の捉え方などの発想力を生かした制作を行うことができる。	画面の構成や形の捉え方、モノトーンによる段階的な調子による表現など多面的な観点における技術の取得を目指して課題意識を持ちながら制作に取り組むことができる。	お互いの作品を鑑賞し、素描表現における多面的な技術の達成度について相互に検討や確認をするとともにこれからの課題についても意見を述べ合うことができる。

5 生徒観

本題材を設定するにあたり、以下のような「素描アンケート1」と「素描アンケート2」を行なった。

(1) 素描アンケート1 31名

1 素描の時間は好きですか？

- (1) 好き [24] (2) 嫌い [1] (3) どちらでもない [6]

2 「1」で(1)と答えた人に質問します。理由を教えてください。

- (1) 楽しいから [13] (2) 技術力が身につくから [8]
(3) その他 [4]

- ・好きな石膏を描いている時が楽しい。
- ・身についたものを試せる。
- ・自分の成長が分かるから。
- ・自分では気づかないものを気付かせてくれる。
- ・受験で必要。

3 「1」で(2)と答えた人に質問します。理由を教えてください。

- (1) 楽しくないから [1] (2) 上達を感じられないから [0]
(3) 進路に必要なから [0] (4) その他 [0]

4 素描を行う中で上達を感じたことがありますか？

- (1) はい [29] (2) いいえ [2]

5 「4」で(1)と答えた人に質問します。

● どういった場面で上達したと感じますか。※複数回答可。

- (1) 作品が完成した時、自ら感じる [11] (2) 友人から指摘された時 [5]
(3) 先生から指摘された時 [8] (4) 過去の作品と比べた時 [21]
(5) これまでの制作時間より短く制作できた時 [5] (6) その他 [1]

- ・作品が完成しなくても5割完成したあたりで自ら感じる。

●上達したと感じる点はどういった点ですか。※複数回答可。

- (1) 構図 [11] (2) 形の捉え方 [12] (3) 陰影※明暗も含む [17]
(4) 質感 [10] (5) 空間の捉え方 [8]
(6) その他 [0]

6 素描を学ぶことの必要性を感じますか。

- (1) はい [31] (2) いいえ [0] (3) どちらでもない [0]

7 「6」で(1)と答えた人に質問します。どういった場面で必要性を感じますか。※複数回答可。

- (1) デッサン力を必要とする制作を行う場面※油画、日本画、デザイン、彫刻など [25]
(2) 受験 [11] (3) 観察力が必要となる場面 [11]
(4) その他 []

- ・素描は全ての基礎だから・光による美しさが分かる
- ・精神面を鍛える。
- ・その後の人生のため

8 「6」で(2)と答えた人に質問します。必要性を感じないのはなぜですか。…該当者なし

9 素描の時間に取り組んでみたいことがあれば、下記の空欄に自由に教えてください。

- ・組み石膏を描きたい
- ・デッサンを行なった目をチェックしたい
- ・生き物のクロッキーや素描
- ・手を使って構成デッサン
- ・静物着彩デッサン
- ・みんなで講評をしたり、グループで作品を見せ合ったりしたい
- ・自画像や友人像を描く
- ・アドバイスがもらえないので積極的に質問したい
- ・筋肉を描く
- ・木炭の違いを試したい
- ・構想デッサンをしてみたい
- ・他の人の制作課程を見て見たい
- ・石膏クロッキーをしたい

(2) 素描アンケート2 33名

素描アンケート2

2年8組()番 氏名()

次の素描作品AとBを見て①良い点②と課題とすべき点について箇条書きで答えなさい。



A

①良い点

- | | |
|------|--------|
| ① 構図 | { 8 } |
| ② 形 | { 6 } |
| ③ 動勢 | { 1 } |
| ④ 明暗 | { 40 } |
| ⑤ 質感 | { 11 } |
| ⑥ 空間 | { 1 } |

②次回からの課題とすべき点

- | | |
|------|--------|
| ① 構図 | { 3 } |
| ② 形 | { 23 } |
| ③ 動勢 | { 1 } |
| ④ 明暗 | { 22 } |
| ⑤ 質感 | { 2 } |
| ⑥ 空間 | { 5 } |



B

①良い点

- | | |
|------|--------|
| ① 構図 | { 6 } |
| ② 形 | { 20 } |
| ③ 動勢 | { 4 } |
| ④ 明暗 | { 14 } |
| ⑤ 質感 | { 10 } |
| ⑥ 空間 | { 21 } |

②次回からの課題とすべき点

- | | |
|------|--------|
| ① 構図 | { 2 } |
| ② 形 | { 9 } |
| ③ 動勢 | { 1 } |
| ④ 明暗 | { 22 } |
| ⑤ 質感 | { 2 } |
| ⑥ 空間 | { 2 } |

(3) 考察

以上のことから、生徒は素描の授業自体は楽しいと感じており、約9割の生徒が上達を実感しながら日々の授業に取り組んでいる。特に自分自身が上達したと感じる時は、誰かに指摘された時よりも、約6割の生徒が過去の自分の作品と比較した時に実感しているようである。また、上達を感じる観点として最も高いのが「明暗」であり約5割を占めている。さらに、「形」、「構図」、「質感」といった観点はほぼ同じ割合で約3割程度であり、最も上達を感じにくい観点は「空間」で約2割ほどである。

「空間」について最も上達を感じにくいことについては、これまでのアンケート調査によって既に確認されていたことではあるが、「空間」といった概念自体が構築されることに個人差があり、その尺度が構築されているかどうかで上達を感じられるか否かが決まってくるので、学習を重ねていくにつれて概念構築が進み、3年次では高いポイントが得られると考える。

しかし、アンケート2で作品A（国立大学教育学部美術受験生）と作品B（芸大受験生）の作品について良い点と課題について質問したところ、作品Aについては空間表現がうまくいっているという評価が少ないにもかかわらず、課題として空間表現の重要性を感じている生徒は少ないことが分かった。一方で、作品Bについては、空間表現がうまく表現できていると感じている生徒が20名程いたことから、何らかの尺度で空間表現についての理解があることもうかがえる。こういった点からも、「空間」についての観点は、表現するための技術としては、まだ身近な存在ではないということが伺える。

さらに、入試のためというよりは制作のためという気持ちで取り組んでいる生徒が多いのも特徴である。純粹に制作の目的として素描に取り組んでいる生徒が多く、様々なモチーフやシチュエーションで素描を行いたいという生徒が多いので、2学期以降は生徒の意見を取り入れながら、授業を進めて行きたいと考える。

6 指導観

本題材では、美術表現における「素描」の学習の重要性を再確認し、「素描」が複数の場面においてユーティリティな効果を発揮することを再確認し、その表現の向上のために、多面的な観点により試行錯誤しながら自己研鑽していく必要性を認識することを目的とする。また、本来ならば、美術に携わる者にとって生涯に渡って学び続けなければならない学習内容ではあるが、特に美術系の進路を目指す高校生にとっては、「素描」に対する取組や価値観といったものが、進路実現において非常に重要なキー・コンピテンシーであるということを再認識することが重要である。そこで、1年次において絵画制作の手段としての技法の取得に力を注いできたが、2年次の今、『「素描」とは何か』といった目的意識を再認識することで、進路に対する「素描」の重要性や制作に対する素描の応用力といったものを再確認することができる。そこで、授業内においては、技術的な面だけでなく目的に対する意識の高揚も目指して指導を行うように心がけるべきだと考える。

具体的には、1学期間の素描作品取組の成果を友人とともに鑑賞することで、客観的に達成度を確認し、2学期の課題について意見を述べ合うことが重要であると考え。その際、アンケート2によって明らかになった課題について見るべき観点を明示することで、多視点から具体的に鑑賞できるようにし、自他の作品を鑑賞する視点を広げ、課題を明らかにさせていきたい。

なお今回の鑑賞は、複数の作品を比較しながら鑑賞を行うため、作品の写真を用いて意見を述べ合う方法で実施する。これは、話し合いの場面としては理想的ではあるが、実物も見ながら細部を鑑賞し合うことも重要であるため、広い空間や作品を鑑賞しやすい教室を、準備することも大切である。

7 題材の指導計画

以下のような日程で約8時間で1枚の作品が仕上がるように設定し、素描の作品制作を行なった。

回	期 間	授業時間	サイズ
1	4/9～4/26	約8時間（約3週間）	木炭紙もしくはB2
2	4/27～5/17	約8時間（約3週間）	木炭紙もしくはB2
3	5/19～5/20	約8時間（約3週間）	木炭紙もしくはB2
4	5/21～6/4	約8時間（約3週間）	木炭紙もしくはB2
5	6/11～6/22	約8時間（約3週間）	木炭紙もしくはB2
6	9/4～9/18	約8時間（約3週間）	木炭紙もしくはB2
7	9/20～10/4	約8時間（約3週間）	木炭紙もしくはB2
8	10/5～10/19	約8時間（約3週間）	木炭紙もしくはB2
9	10/22～11/15	約16時間（約4週間） ※高美術展制作時間確保のため	木炭紙もしくはB2

2学期に入り現在4枚目の制作に入っているが、本時は1学期の5枚の作品について3人のグループ（合計11グループ）に分かれ、その作品画像について意見交換を行いながら達成度と今後の課題について話し合うこととなる。

8 本時の実際

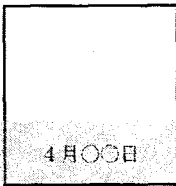
(1) 本時の目標

- (ア) 作品を鑑賞する中で、自身の作品や友人の作品に興味関心を持ち、表現方法や達成度について友人と意欲的に意見交換を行うことができる。(関心・意欲・態度)
- (イ) お互いの作品を鑑賞し、素描表現における多面的な技術の達成度について検討や確認を行うとともにこれからの課題についても意見を述べ合うことができる。(鑑賞の能力)

(2) 準備

教科書・ファイル・筆記用具・拡大投影機・素描作品をプリントアウトしたもの各自5枚程度。

(3) 本時の展開

学習課程	生徒の学習活動	指導上の留意点と評価方法
導入	1 これまでの素描制作について振り返る。 2 手元に配布された素描作品カードを確認。 3 本日の授業目標を確認。 「表現技術の達成度と今後の課題を確認しよう」	○ 4人のグループを8グループに分ける。※ 2グループは5名。 ○ 画像等を閲覧しやすいように机をつけて向かい合って着席させる。 <評価方法> 授業内容と目標を理解できたか。
展開 1	4 2人1組となり、お互いに画像を確認する。 5 お互いに制作年月日が分からない状況で、画像から得られる情報をもとに制作順を予想する。 6 その後、作品の達成度から制作順に並べてみる。そして、どういった理由から現在の順番で作品を並べたのか、お互いに観点別に評価をしてみる。 ※ 場合によっては正確な制作順を開示しても良い。 ※ 空間の観点を取り上げ、視点として示し、具体的に作品について意見交換を行わせる。 7 6番の結果をもとに今後の課題についても話し合う。	○ 作品カードは制作年月日を一緒に撮影したものを準備し、日付の部分をマスキングテープでおおう。  ○ 適宜、制作順との相違についても確認しておく。 ○ 場合によっては、実物も提示。 <評価方法> 観点別にお互いの作品の達成度を確認し、うまくいっている点やそうでない点を確認し合う。
展開 2	★他グループとの交流 8 他のグループから自身の課題解決のヒントになる作品があれば選択してみる。 例) 課題「陰影の色幅を広げる」 →色幅がある作品を見つけたら作者に方法などを尋ねてみる。 ※ 場合によっては、全体に伝える。 9 課題克服のためにモチーフの設定に工夫するべき点があるか確認。	○ グループを越えてお互いに協議を行う。 ○ 友人のコメントをまとめる。 <評価方法> 他グループも含め、課題解決のヒントを見つけることができるように協議を進めていくことができたか。
まとめ	10 今回の授業についての成果をまとめる。	<評価方法> 得られた情報をもとに自身の達成度と課題について確認できたか。

英語科学習指導案

鹿児島県立松陽高等学校

授業者 赤 池 信 一

授業者 テレンス ブライアリー

I 日 時： 2018年11月2日（金）（14:35 ～ 15:25）

II 対 象： 2年2・3組 30名（男子11名， 女子19名）

III 教科書： Power On English Communication II（東京書籍）
“Lesson 7 The Power of Color”

IV 教材観： 現代の情報社会では、言葉や文字によるコミュニケーションだけでは限界があり、絵や写真、図形、色などを用いた情報伝達が不可欠である。そのような中で、街中で目につくのは標識や看板など、色を利用した視覚コミュニケーションである。周囲の中から特に目を引いたり、標識などの文字や図形の意味を明確に伝えたりするために、色の選択は重要である。また、色は心理的な効果にも配慮したコミュニケーションが行われ、商品のパッケージやデザインなどに活用されたり、部屋のインテリアデザインにも色は重要な役割を果たしている。以上のように、色彩の効果を考えることで気づく、言葉や文字以外のコミュニケーションの重要性について考えさせたい。

V 生徒観： 本クラスは2年生普通科文系クラスの習熟度上位クラスである。英語コースの生徒も数名いるが、英語に対して苦手意識を持つ生徒が多い。特に話す活動を苦手としているので、以下に生徒の活動ができやすいように工夫しなければならない。

VI 単元の学習計画：

- | | |
|-------|--------------------------------|
| 1 時間目 | Lesson7 の題材とねらいの説明 Part1 の内容理解 |
| 2 時間目 | Part2 の内容理解 |
| 3 時間目 | Part3 の内容理解 |
| 4 時間目 | Part4 の内容理解 |
| 5 時間目 | Lesson7 の総復習 |
| 6 時間目 | 表現活動 |

VII 単元の目標：

- 1) 題材に関連した事柄について、自分自身のことと結びつけながら、自分の考えを積極的に表現しようとする。
- 2) 各パートの内容を簡潔に伝えることができる。
- 3) 読んだ内容についての情報や考えを的確に伝えることができる。
- 4) 新出語彙や関係代名詞、同格を表す接続詞 thatなどを理解する。

VIII 単元の評価基準：

i)コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	ii)外国語表現の能力	iii)外国語理解の能力	iv)言語や文化についての 知識・理解
① 色の視覚的効果と心理的効果に関心を持ち、意欲的に聞いたり読んだりしている。 ② うまく言えないことがあっても、学んだ表現を用いて、自分が提案することもしくは勧めることを発表している。	① 聞いたり読んだりした内容についての質問に英語で答えることができる。 ② 自分が提案することもしくは勧めることについて、適切な表現を用いて、書いたり話したりすることができる。 ③ 好きな色のランキングについて、聞き取れたことに自分の意見や感想を加えて、積極的に書いたり話したりすることができる。	① 色の視覚的効果と心理的効果について聞いたり読んだりしたことを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。 ② 好きな色のランキングについて、内容を的確に聞き取ることができる。	① 色の視覚的効果と心理的効果について理解している。 ② 色の視覚的効果と心理的効果についての説明に用いられる語句や文法事項(同格を表す接続詞 that/前置詞+関係代名詞/関係代名詞 whose の制限用法/propose など+ that+S+V[=動詞の原形])を身につけている。

IX 本時の指導計画：

時間 (分)	学習 活動	教師の活動	生徒の活動	主な 評価の観点	評価 方法
1	挨拶	- 英語であいさつをする。 - 英語学習の雰囲気を作る。	英語であいさつする。	聞いたことについて簡単な言葉で反応したり、間違えることを恐れず話したりしているか。 i)	活動の観察
5	スモール・トーク	モデルを示す。 What do you imagine or feel for the color of pink?	- モデルを聴く。 - ペアで会話をする。	聞いたことについて簡単な言葉で反応したり、間違えることを恐れず話したりしているか。 i) ii) iv)	活動の観察

2	目標確認	本時の目標を提示する。 “Let’s find out how color influences us.”	本時の目標を心に留る。		
6	復習	教科書の復習, key words と key expressions を確認させる。	教科書の復習, key words を確認する。	学習した文法事項や表現などについての知識を習得しているか。 iii) iv)	活動の観察 筆記テスト (後日)
17	活動 1	3～4人の7グループを作らせる。 - 学校の保健室を, 自分だったらどんな色で変えるか, ワークシートに実際色鉛筆で塗らせ, グループ内で意見交換させる。	3～4人の7グループを作る。 - 学校の保健室を, 自分だったらどんな色で変えるか, ワークシートに実際色鉛筆で塗り, グループ内で意見交換する。	- 自分の考えを積極的に相手に伝えているか。 i) - 相手の発話に対して適切に対応しているか。 ii) iv)	活動の観察 及び ワークシート
17	活動 2	3～4人の7グループを作らせる。 - グループでディスカッションさせる。 タイトル “Is dark green a good color for Shoyo High School ? ”	3～4人の7グループを作る。 - グループでディスカッションする。 タイトル “Is dark green a good color for Shoyo High School ? ”	- 自分の考えを積極的に相手に伝えているか。 i) - 相手の発話に対して適切に対応しているか。 ii) iv)	活動の観察 及び ワークシート
2	本時のまとめと次回の予告	- まとめをする。 - 次回の予告する。			